

平成 29 年度 地域自立支援協議会交流会実施報告

交流会の概要

- 【開催日時】
平成29年8月18日（金曜日）午後1時30分～午後5時
- 【開催場所】
東京都社会福祉保健医療研修センター 5階502教室 他
- 【開催目的】
- 地域自立支援協議会関係者の交流の場を設定し、協議会の活動状況に関する情報交換を実施することにより、地域協議会の円滑な運営や活動の活性化を図る。
 - 都の協議会として、地域協議会の活動状況について把握を図る。
- 【参加者】
地域自立支援協議会委員、区市町村障害福祉主管課職員、事務局等
- 【プログラム】テーマ：「みんなで考える 地域とつながる協議会」
- 開会の挨拶 東京都心身障害者福祉センター所長
- パネルディスカッション
「地域の強みを活かした協議会を目指して—実践報告から考える—」
〈コーディネーター〉 東京都自立支援協議会 会長 岩本 操氏
(武蔵野大学人間科学部人間科学科教授)
- 〈パネリスト〉 足立区自立支援協議会事務局 佐藤 佳代氏
(足立区障がい福祉センター地域生活支援担当係長)
昭島市障害者地域支援協議会 副委員長 高橋 知子氏
(特定非営利活動法人在宅福祉サービスウイズ理事長)
- グループ討議 (近隣の自治体7～9人で7グループを構成)
グループ毎に他地域の協議会関係者と意見交換
- 事前アンケートのとりまとめ資料を基に、①自地域の協議会活動の成果や良かったこと、②これから協議会活動で取り組むべきと思うことについて紹介と質疑応答
 - 各自治体（チーム）単位での振り返り時間を設け、協議会活動について自地域の強みと、他地域の話聞いて協議会活動に取り入れたいことをキャッチコピーとして一言でまとめる。……………
- *各グループに都協議会委員をファシリテーターとして配置
- 全体会
- 各自治体のキャッチコピーの発表
 - 都自立支援協議会 岩本操会長による結び

参加者の概要

参加者数 53人

(9区14市1町)
(所属内訳) ※複数回答

協議会委員	48人
協議会事務局	9人
市町村所管課	7人
その他	1人

アンケートより

- 他地域の方の活発な意見に感動した。
- 近隣市との討議だったので、とても参考になる意見が聞けた。
- グループ討議は、もう少し時間があれば良い。
- グループ分けについて、近隣の自治体だけでなく、他地域とも情報交換したい。

パネルディスカッション「地域の強みを活かした協議会を目指して」—実践報告から考える—

- 東京都自立支援協議会 会長 岩本 操氏（コーディネーター）
- 交流会に期待すること
- 交流会はまさに「都と地域の協議会活動の双方向性を強化し、東京における地域課題を考える」という今期の東京都自立支援協議会のテーマと直結している。
 - 他を知ることで自分たちを知る、共通点と特徴を知る、1自治体でできること、他の自治体と連携してできること、広域で考えるべきこととこのを整理する機会になればと思う。
- 「地域課題」と「協議会活動の課題」
- 初年度の協議事項は、「東京の協議会活動がさらに機能するためには何が必要か」とした。東京都では、島を除く全区市町村で協議会が設定され、課題がいろいろ出てきている。次のステップに行くために、何が必要かということを考えたい。
 - 都協議会1回目の本会議では、いろいろな地域課題を委員から挙げてもらい、共通する課題や地域の特徴と思えることを見える化した。
 - 大別すると、「複数の自治体に当てはまる地域課題」と、「協議会活動や協議会の運営上の課題」の2つが出てきた。
 - 地域課題としては、相談支援の質や量や資源、住まい、権利擁護、虐待、高齢分野との連携という課題が複数挙がった。また、切れ目のない支援、医療的ケア、教育支援、就労支援といったものも挙がっている。
 - 協議会活動や協議会の運営上の課題としては、協議会の役割が曖昧であるという意見があった。また、計画策定や施策との関連で、一体協議会は何をするのか、という問題も挙げられた。

グループ討議後の各自治体（チーム）キャッチコピー

自治体名	自分たちの協議会の〈強み〉	今後協議会活動に〈取り入れたいこと〉
中央区	協議会の活用で、地域と行政をつなげよう!	当事者の主体的な参加とさらなる関係部署との連携
新宿区	問題意識の高い委員と区直営協議会の力	課題意識を協議会委員で共有し、実りのある協議をする
文京区	障害当事者による会議参加・意見発信	台東区の65歳の対比表等の具体的取り組み
台東区	近くて顔が見える下町、これが台東	地域の意見を吸収、当事者の声を反映していく
江東区	下町の粋を生かしたバランスのある協議会	カタチに残る物を作っていく
目黒区	活発な部会活動がうみだしたネットワーク	わかりやすい地域課題の共有と当事者の方を協議会に!!
大田区	各部会にバラエティのある人が参加していて、言いたいことが言える	あり方について検討会、プロジェクトベースの部会を越えたPTの開催
世田谷区	たのし区 民なで(たのしく、たのしく、みんなで)	地域課題の解決
中野区	ケースに基づいた議論と区民への働きかけ	もっと当事者の意見を聞く事、と課題の解決までやること
立川市	既存のネットワークを大切に!	当事者の参加
武蔵野市	当事者の声をよくきく	武蔵野市で生まれた成果(モノ、サービス)を広域の社会資源として役立てていく
三鷹市	刷新する協議会	ネットワークの構築
青梅市	各部会の成果を共有できる協議会	障がい者福祉の課題により柔軟に対応できる協議会活動
府中市	連携しやすい	他自治体との関わり
昭島市	深掘りと横串	専門部会の統廃合と、市の事業の予算化
調布市	地域の課題やニーズにアンテナを張れる	誰のための支援なのかを念頭に置き、市民全体にも障害理解を推進すること
小平市	横のつながり、関係機関の協力体制・連携力	横のつながり、関係機関の協力体制・連携力 ものに 実現力、判断力に
東村山市	伸びしろが多い	当事者参加・広域連携
福生市	可能性があらわれる協議会	地域の実態と課題が反映される体制作り
東大和市	相談部会としては、顔の見える関係性が出てきている。毎年分かりやすいテーマを考えて活動	GHの課題を考える場を作りたい、又権利擁護の視点で、当事者の参画をすすめてほしい
多摩市	キティちゃんと共に障害者理解を	地域の障害者理解の和を
羽村市	民間と行政力を合わせる	連携の強化
あきる野市	多くの団体・事業所が参画しているため、ニーズを把握しやすい	問題解決のために頭と体を使う
大島町	小さいコミュニティーだから連携がとれる	絶対今年度中に立ち上げます

足立区自立支援協議会事務局 佐藤 佳代氏（パネリスト）

○区の特徴と地域自立支援協議会

- 区内に3つの特別支援学校と5つの大きな精神科病院を抱えており、障害者の数は23区で一番多い。
 - 足立区の自立支援協議会は、障害福祉センター（アシスト）と本庁にある障害福祉課、中央本町地域保健総合支援課の3つの課が事務局を担っている。区直営、委員は区長が委嘱して任期は1年。平成19年3月に設置されて丸10年の節目を迎えている。
- 地域自立支援協議会の特色と課題・見直し
- 現在の専門部会は9部会。足立区の特色として、アシストの各部門の部署の事業として関係機関のネットワークという形で存在していたものを、協議会を設置する時にそのまま専門部会として位置付けた。参加団体数、活動の内容、活動頻度は毎月から年2回までなど様々。取りまとめた課題を定例会で精査しているが、十分に全体会へ挙げられないという課題がある。
 - 一番大きな見直しは専門部会。(9部会から)6部会とする予定。各専門部会には、いろいろな立場の方から選出したメンバーで、障害のある方が地域で生活するという視点でいろいろなご意見を協議できる場にした。各専門部会の部会長には全体会の委員にもなってもらう予定。

〈キャッチコピー〉

- 自分たちの協議会の〈強み〉→「日頃からのつながりを活かした協議会」
- お互いの話を聞いて〈取り入れたいこと〉→「民間の底力(力のある方の発掘)」

昭島市障害者地域支援協議会 副委員長 高橋 知子氏（パネリスト）

○「障害者自立支援推進協議会」と「障害者地域支援協議会」

- 事務局は市の障害福祉課。2つの会議体の連携(情報の共有化や意見交換をする場)のための懇談会がある。
- 推進協議会(平成18年設置)は、障害福祉計画の策定に関する事項の調査審議を目的としている。障害者の課題を検討するシステムがなかったため、地域支援協議会の前身として市障害者児ネットワーク推薦者6名と推進協議会委員1名で構成された「地域支援会議」を平成20年10月に立ち上げた。課題の整理を行い、推進協議会へ報告した。地域支援協議会(平成28年4月新設)は、地域の実情に応じた体制の整備等について協議を行う目的とし、全体会と事務局会議と8つの専門部会で成り立っている。

○地域支援拠点PTの取組及び成果と課題

- 市の機能と役割を明確にするため、地域支援拠点PTを立ち上げた。専門部会で横串、横のつながりという機能を発揮して要求課題の整理と情報の共有化を全体で図ることができた。
- 専門部会の数が多いために全体会で討議するのに時間を要する。
- 障害福祉の課題解決や地域の取組は、予算措置が大変重要。昭島市は予算が少ない、社会資源も少ないため、東京都の事業活用なども含めて喫緊の課題。

〈キャッチコピー〉

- 自分たちの協議会の〈強み〉→「深堀(専門部会)と横串(プロジェクトチーム)」
- お互いの話を聞いて〈取り入れたいこと〉→「専門部会の統合の進め方」

会長の結びのコメント

- 自地域の強みが課題解決の資源になっていく。ここで感じ考えたことを地域の協議会に持ち帰って共有し、次の活動につなげてほしい。
- 協議会はボトムアップをコンセプトとしているが、実際はトップダウンでやっているところもあると思う。自分たちの地域に合った協議会のあり方、運営、構成メンバー等も考えていっていい段階に入ってきたのではないかと感じている。自分たちの地域に足りないところを、協議会の場を使って、地域独自の持ち味をエッセンスとして入れ込んでいくと、また新しい展開につながっていくのではないかと感じた。
- 当事者の方がこの交流会にもっと参加しやすいようにしていきたい。
- また、それぞれの自治体でできること、広域でできること、そして東京都の協議会が担うべき役割も一緒に考えていってほしい。
- 限られた時間だったが、皆様のいろいろなアイディアで交流につながったと思っているので、これで終わりではなく、明日につながってほしい。